

株式会社シティアスコム

九州に拠点を構え、多彩な ICT ソリューションを提供している株式会社シティアスコムは、あるノンバンク系金融機関の基幹系システムの開発・運用を長年にわたり担当しています。2017 年のシステム更改では、単なるサーバーリプレースではなく情報系システムとの連携機能追加も求められました。ACUCOBOL で構築された業務システムのマイグレーションと機能拡張を行うことになり、同社は Micro Focus Visual COBOL を採用。情報系システムとの連携は「Visual COBOL + WCF + RESTful Web サービス」という先進的な組み合わせで実現。システム更改は品質・コスト・納期を遵守して達成され、Web サービス活用により顧客の利便性も大幅に向上しました。また、既に取り組んでいる BI の活用をはじめ、Web サービスや新技術との連携など、選択肢が広がりました。



Overview

株式会社シティアスコムは、1971 年の創業以来、アプリケーション開発からネットワーク設計、システム保守・運用まで多彩なソリューションを提供しているシステムインテグレーターです。「お客様と明日を創る ICT パートナー」を企業理念に、事業継続計画 (BCP) 支援ソリューション、ニアショアサービス、データセンターソリューションなどをラインナップ。情報技術のプロフェッショナルとして顧客のビジネスを全方位からサポート、その経営戦略に確固たる優位性をもたらすべく、顧客とともにまっすぐ明日を見つめて走り続けています。

Challenge

同社では、あるノンバンク系金融機関の基幹系システムの開発・運用を長年にわたり担当しています。この基幹システムはもともと汎用機で稼働しており、2007 年のハードウェアリプレースのタイミングに Windows サーバーへマイグレーションされました。ここでシンクライアント環境も導入されています。その 5 年後はハードウェアのみをリプレースしましたが、そのまた 5 年後の 2017 年リプレースでは、OS を含めサーバー上のソフトウェアの多くが保守期間満了となり、大がかりなバージョンアップが必要となりました。そして、中にはこのままではバージョンアップ不可能という業務システムも出てきました。それは、ACUCOBOL で開発された COBOL プログラム 400 本、PL/SQL 180 本、JCL 160 本、画面数 228、帳票数 160 という構成のシステムでした。システム更改について顧客との打ち合わせを開始した 2015 年当時、ACUCOBOL は日本での製品機能拡張が停止されていました。それなら VB.Net や Java などといったオープン言語でリライトするか。しかし書き換えには高いリスクを覚悟しなければなりません。株式会社シティアスコム 開発ビジネス本部 金融開発部 課長 加茂慎二郎氏は、次のように語ります。

「ACUCOBOL で書かれた計算ロジックは非常に複雑で、プログラム品質を保ちつつ他の言語でリライトするとしたら、開発コストや工数が膨れ上がります。品質、予算と納期を遵守してシステム更改を果たすには、このまま COBOL 資産を維持するのが最善でした。しかし、ACUCOBOL は最新環境をサポートしておらず、求められている情報系システムとの連携も難しい、それが分かった時には目の前が暗くなりました」

そこで加茂氏は ACUCOBOL の後継製品としてマイクロフォーカス社が提供している「Micro Focus Visual COBOL」での移行可能性を探り始めます。今回のシステム更改では、単なるサーバーリプレースではなく情報系システムとの連携機能追加も求められていました。別のシステムインテグレーターが開発・運用を担当している情報系の Web アプリケーションシステムは、これまで基幹系システムと完全に分断されており、相互参照する情報もそれぞれ入力する必要がありました。転記ミスが発生するなどデメリットは認識されていましたが、ACUCOBOL での Web システム連携は実現不可能でした。

そこで加茂氏は ACUCOBOL の後継製品としてマイクロフォーカス社が提供している「Micro Focus Visual COBOL」での移行可能性を探り始めます。今回のシステム更改では、単なるサーバーリプレースではなく情報系システムとの連携機能追加も求められていました。別のシステムインテグレーターが開発・運用を担当している情報系の Web アプリケーションシステムは、これまで基幹系システムと完全に分断されており、相互参照する情報もそれぞれ入力する必要がありました。転記ミスが発生するなどデメリットは認識されていましたが、ACUCOBOL での Web システム連携は実現不可能でした。

Solution

ACUCOBOL から Micro Focus Visual COBOL への移行と、COBOL 資産を活用できる Web サービスの実現。その課題を、2015 年秋に開催された「COBOL フォーラム」への参加を機にマイクロフォーカス社に相談したところ、Visual COBOL への移行が可能であること、さらに複数の Web サービス実現手段もあるとの説明を受けました。加茂氏は当時をこう振り返ります。

「マイクロフォーカスが Web サービス実現シナリオをいくつも示してくれ、実際にサンプルプロ

株式会社シティアスコム

At a Glance

Industry

IT サービス業

Location

福岡県福岡市早良区

Challenge

- + サーバーリプレースに伴う ACUCOBOL 資産の移行
- + Web サービスによる基幹系と情報系のシステム連携

Solution

- + ACUCOBOL から Micro Focus Visual COBOL への移行
- + Visual COBOL+WCF+RESTful Web サービス

Results

- + 品質・コスト・納期目標の達成
- + Web サービス活用による顧客の利便性向上
- + システムインテグレーターとして先進テクノロジーをマスター
- + BIをはじめ新技術との連携が可能なシステム基盤を構築

「マイクロフォーカス社から示された
Webサービス実現のシナリオとサンプルプログラムで、
COBOL資産がWebサービスでどう生かせるか明確にイメージできました。
当社はMicro Focus Visual COBOLへ移行するとともに、
フロント部分にVB.NETを採用。WCF+RESTfulという組み合わせで
Webサービスを実現することを決めました」

株式会社シティアスコム
開発ビジネス本部 金融開発部 課長 加茂慎二郎氏

www.microfocus.co.jp

グラムまで作ってくれたので、COBOL 資産が Web サービスでどう生かせるか明確にイメージできました。それで、安心して Visual COBOL への移行を決断することができました。フロント部分には VB.NET を採用し Windows Communication Foundation (以下、WCF) と RESTful という組み合わせで Web サービスを実現することにしました。その理由は、情報系システムの開発・運用を担当している会社と「情報は JSON ファイルでやりとりしよう」と決めていたこと、RESTful は新しい技術で未来があり、実装が軽量だったからです」

Micro Focus Visual COBOL が提供する Web サービス機能は、WCF の実装部分を COBOL で構築でき、言語間のパラメーター変換を意識することなく CALL 文で WCF から既存の COBOL の呼び出しが可能でした。

株式会社シティアスコム 開発ビジネス本部 金融開発部 主任 菰田隆弘氏は、「我々のチームは COBOL エンジニアが中心で、「Web サービスとは?」というところから入りましたが、マイクロフォーカスの担当者が親身になって対応してくれたので大変助かりました。Visual COBOL 評価版での検証時にも、実際に開発がスタートしてからも、いつもこちらの質問に対し迅速に的確な回答をもらうことができ、「相談すれば何とかしてくれる」という安心感がありました」と語ります。

株式会社シティアスコム 開発ビジネス本部 金融開発部 高田ひかり氏は、Micro Focus Visual COBOL の使用実感を次のように語ります。「Web サービス開発は初めてで少し苦労しましたが、Visual COBOL の開発環境は非常に操作性がよく、少し入力するとオートコンプリートで候補が現れるので効率よく開発を進めることができました。COBOL と VB.NET を一つの開発環境でデバッグできるのが便利ですね。言語が二つになるので、管理が別々になると困ると思っていましたがこれは杞憂でした」

また、オンラインアプリケーションは、VB.NET の WinForm で作成した画面から呼び出すクラスライブラリを、COBOL のビジネスロジックを

活用して実装することができたので、さらなる開発の効率化も図れたそうです。

顧客サイドは IT 企画部を中心に全社横断的なプロジェクト推進体制を敷き、シティアスコムでは顧客との情報共有に万全を期した上で、現行システムを熟知したメンバーが社内他部門とも連携しながら開発を進めていきました。

Results

本格的に開発がスタートしてから約 1 年半、入念なテストも終え、当初の予定よりひと月も早く新システムはカットオーバーしました。2017 年 10 月のことです。COBOL 資産を維持したことでプログラム品質は守られ、重要視されていた開発予算も遵守できました。求められていた情報系システムとの連携も、Visual COBOL + WCF + RESTful Web サービスという先進的な組み合わせで実現しました。

また、今回顧客からの要望で、本システムはプライベートクラウドで利用料モデルの仮想環境として実装されました。シンクライアント環境は Microsoft Surface 上で利用されています。情報系と基幹系のデータベースも統合され、顧客は情報系システムから基幹系システムの情報を参照できるようになりました。外出の多い営業担当者は、システムの利便性が大幅に向上したことで業務の効率化が図れているといえます。

一方、シティアスコム 金融開発部では、COBOL 資産を活用した Web サービス開発という新技術を手に入れ、最新テクノロジー環境での既存ビジネスロジック有効活用を提案できるなど、ソリューションの幅が広がりました。さらに ACUCOBOL マイグレーションの経験も今後ソリューション化していこうと構想されています。

シティアスコムは多彩な ICT ソリューションを提供することで、生産性向上のみならずセキュリティや BCP 対策にも熱心な顧客の要望に応え、そのビジネスに貢献してきました。「お客様の声を大切に、最適なソリューションを提供する」「常に一歩先を見据え新技術にチャレンジする」その姿勢は顧客から高い評価を得ています。

ユーザープロフィール

株式会社シティアスコム

本社：福岡県福岡市早良区

設立：1971年1月

資本金：4億4,200万円

売上高：94億円

従業員数：485名(2017年4月現在)

事業内容：業務アプリケーション開発、システム構築及び保守サービス、ネットワーク構築・運用、データセンター事業、パッケージ販売等

<http://www.city.co.jp/>

記載の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
本ユーザー事例の内容は、2018年1月に作成したものです。
MFJ690-1811-1MB | © 2018 Micro Focus. All rights reserved.

マイグレーションの概要

